

榛名山麓の水生甲虫類 (1) 水生甲虫相の解明

茶珍 護 (群馬県立ぐんま昆虫の森)・伊藤 嵐・飯島明宏 (高崎経済大学大学院 地域政策研究科)

はじめに

近年、全国的に衰退が著しい水生甲虫類について、群馬県ではデータが不足している状況にある。群馬県内の水生甲虫類については、林 (2008) や茶珍 (2015) が、これまで県内でほとんど報告がなかったダルマガムシ科やヒメドロムシ科などの流水性甲虫類を含め、水生甲虫相の解明をすすめてきた。しかし、調査エリアも限られ、まだ十分に解明されているとはいえない。そこで、著者らは、昆虫施設と大学が連携することで人材育成と共に県内の水生昆虫相の解明をすすめることができると考え、水生昆虫調査隊を組織し、これまでほとんど調査が行われてこなかった榛名山麓に着目し、河川を中心に調査を行った。

調査方法

三ヶ年で榛名山麓全域の調査を計画し、一年目の今年は、南麓を流れる烏川とその支流において調査を行った。また一部、休耕田など止水環境でも調査を行った。調査は各地点において、メッシュ 1 mm の D フレームネットを使ったすくい採りを行い、採集を行った。またヒメドロムシ類の採集では、洗濯ネットを利用した底の部分を開けたネットも使用した。さらに流路中に突き出た岩や礫の水際を目視により探すことでダルマガムシ類を採集した。

採集した水生甲虫類は、成虫については乾燥標本とし、幼虫は 70% エタノールで保存した。得られた標本はすべて群馬県立ぐんま昆虫の森に保管されている。

調査結果および考察

本調査で確認された水生甲虫類は 9 科 30 種であった (表 1)。オサムシ亜目では、コツブゲンゴロウ科 1 種、ゲンゴロウ科 5 種、ミズスマシ科 1 種が確認され、カブトムシ亜目では、ガムシ科 5 種、ダルマガムシ科 2 種、マルハナノミ科 1 種、ヒラタドロムシ科 4 種、ドロムシ科 1 種、ヒメドロムシ科 10 種が確認された。

特記すべき種として、ゲンゴロウ科では環境省 (2015) のレッドデータブック (RDB) において準絶滅危惧、群馬県 (2012) の RDB において絶滅危惧 I 類に選定されているクロゲンゴロウ *Cybister brevis* があげられる。これは烏川支流、長井川川岸の流れの緩やかな淀み中で見つかった。また、環境省 RDB、群馬県 RDB において準絶滅危惧に選定されているキベリマメゲンゴロウ *Platambus fimbriatus* が烏川の本流より複数確認された。

ガムシ科では、これまで県内で報告がなかったヒメセマルガムシ *Coelostoma orbiculare* が高崎市倉渕町の休耕田より多数確認された。

ヒメドロムシ科では、環境省 RDB において絶滅危惧 II 類に選定されているケスジドロムシ *Pseudamophilus japonicus* が確認された。本種はこれまで県内では榛名山麓南面に流れる車川でのみ記録があったが、本調査でそのさらに下流にあたる榛名白川でも生息が確認できた。しかし、時期が限られるようで 6 月下旬に複数見られたが、翌月に確認できたのは 1 個体のみだっ

表1. 本調査で確認された水生甲虫類

科名	和名	学名	RDB(環境省)	RDB(群馬県)	備考
コツブゲンゴロウ科(1種)	コツブゲンゴロウ	<i>Noterus japonicus</i> Sharp			
ゲンゴロウ科(5種)	チャイロシマチビゲンゴロウ	<i>Nebrioporus anchoralis</i> (Sharp)			
	モンキマメゲンゴロウ	<i>Platambus pictipennis</i> (Sharp)			
	キベリマメゲンゴロウ	<i>Platambus fimbriatus</i> (Sharp)	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
	コシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus granmicus</i> Germar			
	クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i> Aube	準絶滅危惧	絶滅危惧I類	
ミズスマシ科(1種)	オナガミズスマシ	<i>Orectochilus regimbarti regimbarti</i> Sharp			
ガムシ科(5種)	ヒメセマルガムシ	<i>Coelostoma orbiculare</i> (Fabricius)			群馬県初記録
	マルガムシ	<i>Hydrocassis lacustris</i> (Sharp)			
	コモンジミガムシ	<i>Laccobius oscillans</i> Sharp			
	コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i> (Sharp)	情報不足		
	ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i> Fabricius			
ダルマガムシ科(2種)	セスジダルマガムシ	<i>Ochthebius inermis</i> Sharp			
	ハセガワセスジダルマガムシ	<i>Ochthebius hasegawai</i> Nakane et Matsui			
マルハナノミ科(1種)	コクロマルハナノミ	<i>Odeles inornata</i> (Lewis)			
ヒラタドロムシ科(4種)	ヒメマルヒラタドロムシ	<i>Eubrianax pellucidus</i> Lewis			
	ヒラタドロムシ	<i>Mataeopsephus japonicus</i> (Matsumura)			
	チビヒゲナガハナノミ	<i>Ectopria opaca opaca</i> (Kiesenwetter)			
	チビマルヒゲナガハナノミ	<i>Macroebria lewisi</i> Nakane			
ドロムシ科(1種)	ムナビロツヤドロムシ	<i>Elmormorphus brevicornis brevicornis</i> Sharp			
ヒメドロムシ科(10種)	ヒメハバビドロムシ	<i>Dryopomorphus nakanei</i> Nomura			
	キスジミゾドロムシ	<i>Ordobrevia foveicollis</i> (Schonfeldt)			
	コマルヒメドロムシ	<i>Optioservus yoshitomi</i> Kamite			
	マルヒメドロムシ属の一種	<i>Optioservus</i> sp.1			
	ツヤヒメドロムシ	<i>Optioservus nitidus</i> Nomura			
	ケスジドロムシ	<i>Pseudamophilus japonicus</i> Nomura	絶滅危惧II類		
	ツヤナガアシドロムシ	<i>Grouvellinus nitidus</i> Nomura			
	マルヒメツヤドロムシ	<i>Zaitzeviaria ovata</i> (Nomura)			
	ツヤドロムシ	<i>Zaitzevia nitida</i> Nomura			
	ミソツヤドロムシ	<i>Zaitzevia rivalis</i> Nomura			

た。また、これまであまり県内の河川中より採集記録がなかったキスジミゾドロムシ *Ordobrevia foveicollis* が烏川本流の河床より多数見つかった。県内ではこれまで茂林寺沼でライトトラップによって得られた個体のみでの記録しかなく、河川中で初めて確認された。また近年、榛名山南麓で記録されたヒメハバビドロムシ *Dryopomorphus nakanei* は、本調査により榛名山南麓に広く分布していることが分かった。この種は、川辺の水中に露出したツルヨシの根際で見つかり、同じような環境でドロムシ科のムナビロツヤドロムシ *Elmormorphus brevicornis* も生息していることを確認している。

これらの調査結果より、榛名山南麓を流れる烏川およびその支流には、希少種を含め多くの水生甲虫類が生息していることが明らかとなり、豊かな河川環境を有していることが示唆された。

今後、引き続き調査を行い、榛名山麓の水生甲虫類の全容を明らかにしていきたい。

キーワード (水生甲虫類、榛名山、ゲンゴロウ科、ガムシ科、ヒメドロムシ科、群馬県)

引用文献

- 茶珍 護 (2015) 群馬県産流水性甲虫類の分布記録. ホシザキグリーン財団, (18) : 231-249.
 群馬県 (2012) 「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編 2012年改訂版」. 301p. 群馬県環境森林部自然環境課.
 林 成多 (2008) 群馬県で採集した流水性甲虫類. 甲虫ニュース, (164) : 11-13.
 環境省 (2015) レッドデータブック 2014(5)昆虫類. 509p. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室.